

移住・定住対策を



都市と地方との格差問題が大きな課題になっている。地域格差の源は、人口の減少と高齢化社会にあり。団塊の世代が職場からの退職が始まっている、人生の総仕上げとも言えるべき誰もが健康で豊かな、老後を望んでいる。澄んだ空気、きれいな水、ストレスのない静けさが三大要素になっている。つまり地方ほど健康的で魅力のあるところと言われ、団塊の世代のある調査によると、殆どの人が地方に住みたいという希望がある。故郷に戻りたい、今までの生活を変えて農業をしたい、田舎で暮らしをして見たいと言った望みを持っている人が多いと言う結果が出ている。高齢者には安心して暮らせる仕組みは欠かせない。郊外に医療体制が整っているのも大きな要件の一つであり、人が移り住めばビジネスチャンスも生まれ、経済活力も高まり、町が活気づくことにもなる、医療費の抑制にもつながっていく、北海道が進めている「北の大地への移住促進事業」幕別町も登録町として、また人口減少からも、新たな行動を起こして移住・定住に関する施策を講ずる時と思うが所見を伺う。

町長

道内市町村で構成する北海道移住促進推進協議会に設立当初から加盟し、移住の促進に取り組んでいる。

移住希望者との個別相談はもとより、北海道や移住促進協議会のホームページを通じて情報の提供に加え、平成19年には、首都圏と札幌市で移住フェアに職員を派遣し、プロモーション活動を実施した。

移住促進事業は、他地域との競争でもあり、本町の特色を前面に打ち出し、差別化を図りたい。

今後、都市機能や交通の利便性に加え、競技人口100万人とも言われるパークゴルフ発祥の町であるという財産、さらには素晴らしい自然環境やバランスのとれた生涯学習環境、医療・福祉環境など、本町での暮らしや生活がイメージできる情報を提供し、体験移住事業など先進事例を研究・検討したい。

移住を希望する方は、最初から特定の町を念頭に置くことは少なく、北海道や十勝といった広い範囲で考えることが多く、地域間の連携・協力による取り組みも大切であり、十勝圏複合事務組合では、基金事業の一つとして、大都市圏でのプロモーション活動を実施している。

今後、道や協議会、移住関連団体と連携を図り、効果的な情報の提供に努め、移住と定住対策に取り組みたい。

農業後継者パートナー対策を



安全、安心の食料自給を担っている農業、幕別町にあっても高齢化が進み、農家戸数も年々減少している。パートナーがいなかったために道半ばで断念せざるを得ない農家もある。

以下、所見を伺う。
①パートナーを必要な農家の実態と支援の状況について。
②支援組織の実態と活動の状況について。

町長

①平成20年3月1日現在、50歳未満の町内の独身農業後継者は134名（幕別地域116名、忠類地域18名）となっている。

支援状況については、幕別町農業振興公社が行なう事業にグリーンパートナー対策事業があり、花嫁対策に係わる総合的な支援を行っている。具体的には、女性との交流や出逢いの場を作り、独身農業者との交流会を年3回実施するほか、十勝農業委員連合会主催のブロック別花嫁対策共同事業でも年1回実施し、年間4回の交流の場を確保している。これらの交流を踏まえ、その後のサポートや相談窓口となる担い手専属アドバイザーを公社に配置し、できるだけ多くの結婚が成立するよう取り組んでいる。

公社のホームページには花嫁募集のコーナーも開設しており、年間4、5件の問い合わせがあり、情報化時代にあつた募集も強化したいと考える。

②独身農業後継者で組織する、幕別町クラブアップルの役員が企画立案から実施に至るまで中心的に活動しており、この交流会が成婚へのきっかけ作りの手助けとなるよう事務局としても尽力している。